

眼窩内膿瘍を合併した前頭洞炎 の治療経験

上越総合病院 耳鼻咽喉科

五十嵐 良和

症 例

- 1 内視鏡下鼻内手術で治癒した症例
- 2 内視鏡下鼻内手術で前頭洞炎は改善しかし、眼窩内骨膜下膿瘍が残存し後日、鼻外手術を追加施行した症例

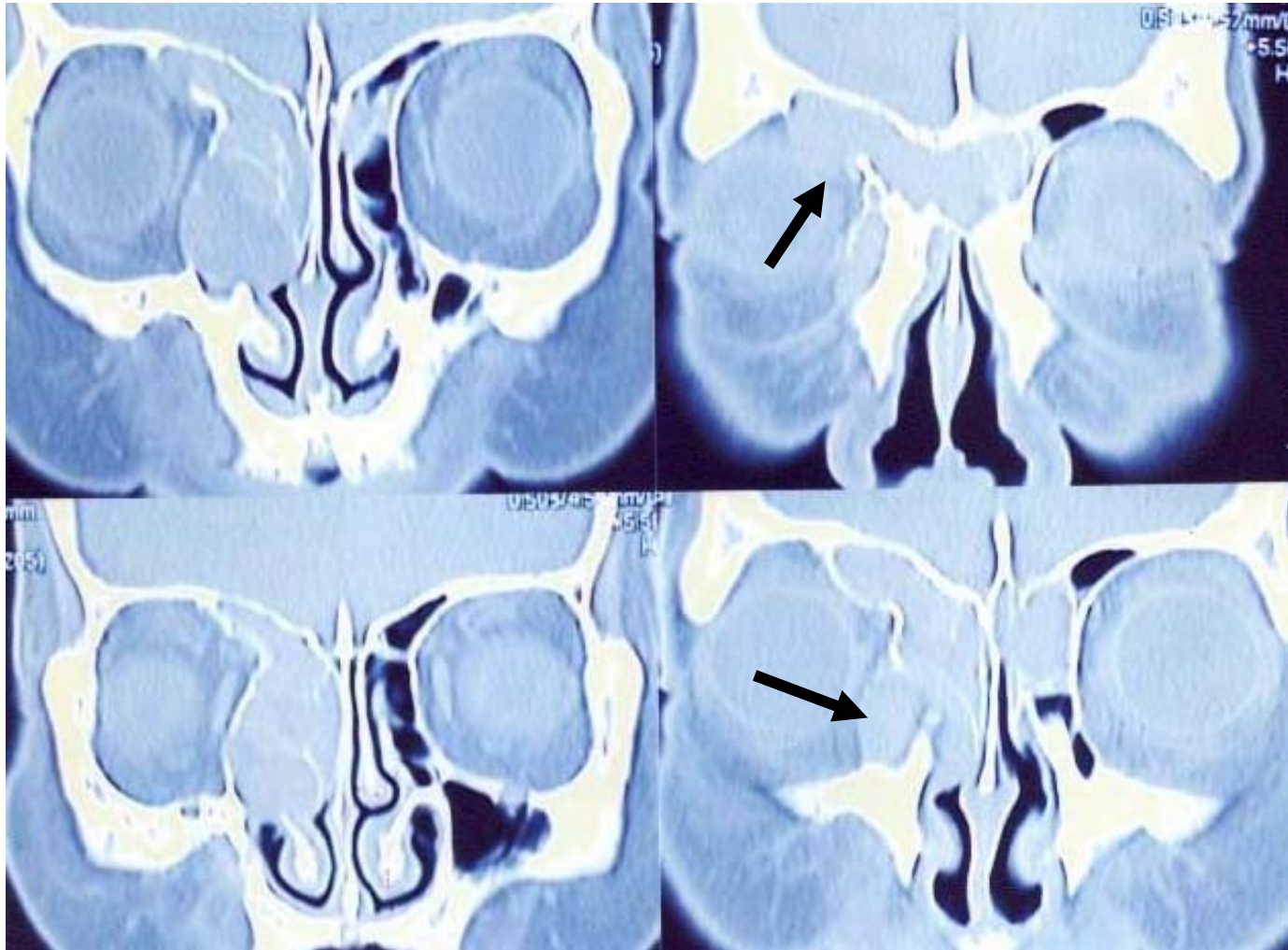
症例1 70代 女性

12年前 右ルック法施行

7年前より時々右眼周囲の腫脹が出現
近医にて保存治療を受けていた。

眼窩内病変の確認目的で当院へ紹介。

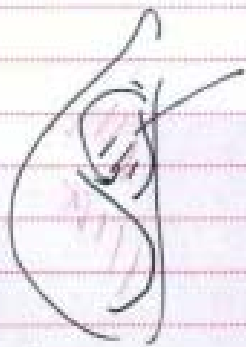
初診時CT



右前頭洞、右篩骨洞に嚢胞
眼窩内(矢印)、左前頭洞への病変進展

手術所見

手術所見及手術術式



腫脹の Bulla mucosa

→ 切開



舌頭側を太直に開放

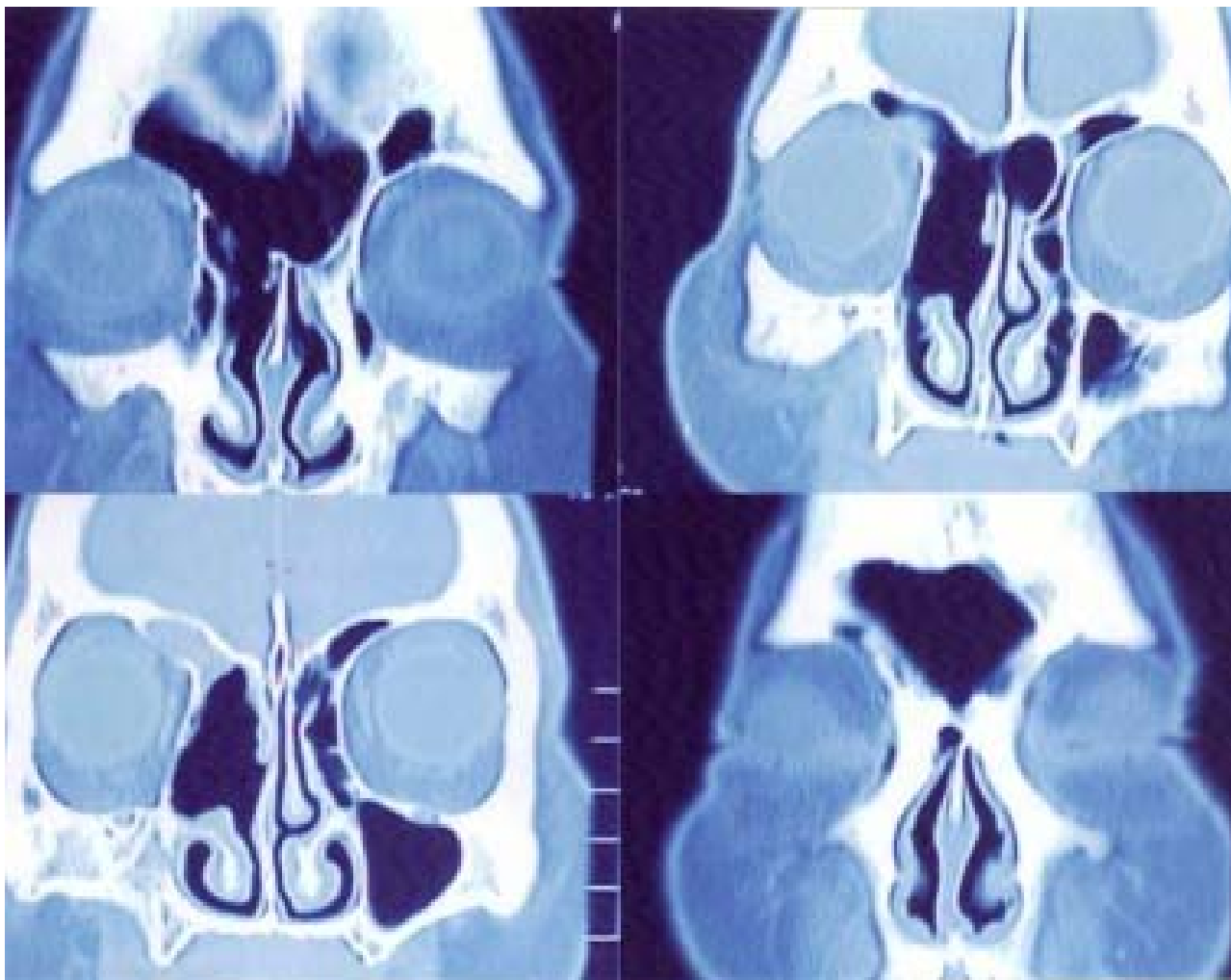
(左側 = 交通部)

篩骨洞の cyst 也可見の
開放し、予作膿可

肥厚
舌下腺 (5)



術後CT



副鼻腔、眼窩内病変ともに治癒

症例2 50代 女性



3日前から

右上眼瞼腫脹・疼痛出現
脳神経外科医院より紹介。

右眼球突出

眼球運動：全方向制限

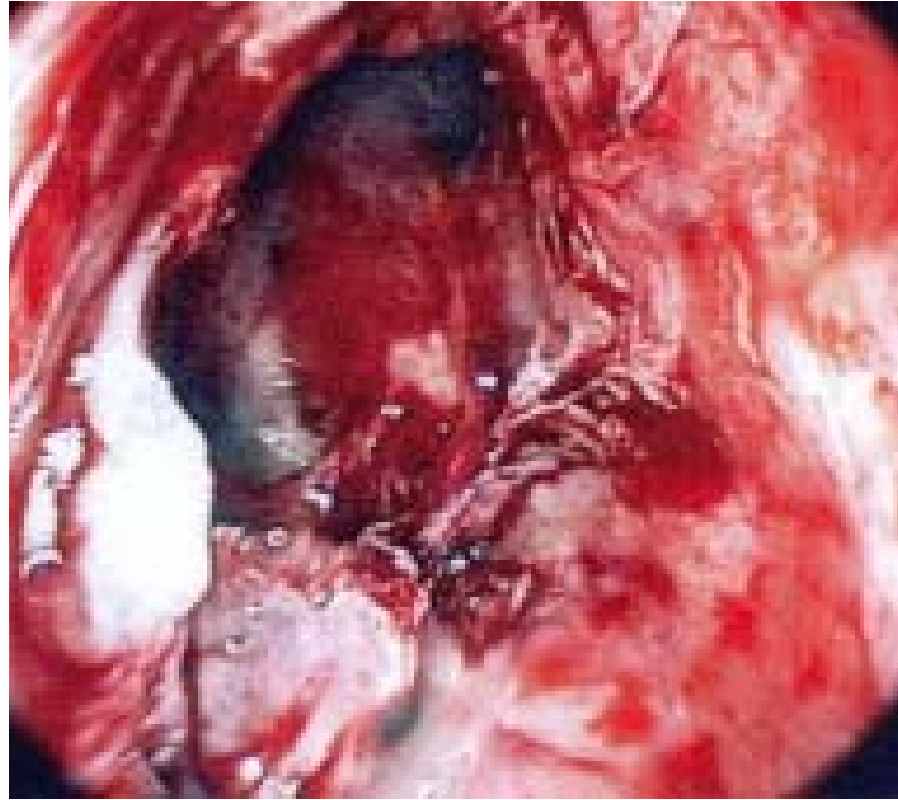
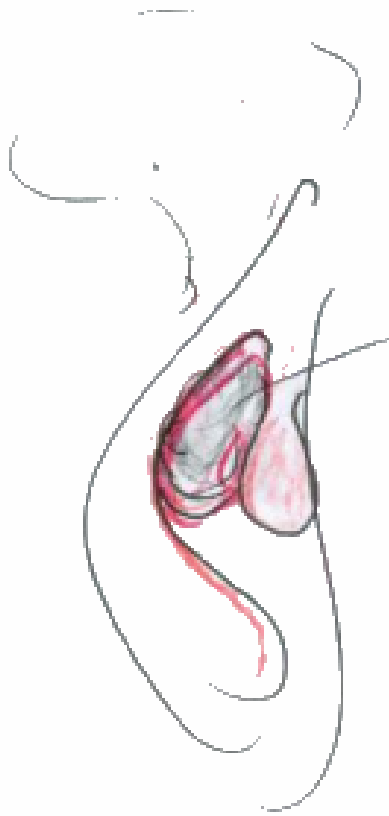
眼圧上昇(42mmHg)

初診時CT



前頭洞下壁に骨欠損、右眼窩内に病変

手術所見と術後治療



鼻内から前頭洞を大きく開放、多量の膿を排出
術後、ステロイドと抗生剤を投与

術後所見



副鼻腔、鼻内所見は良好だが
眼窩内膿瘍(矢印)と眼球突出が残存

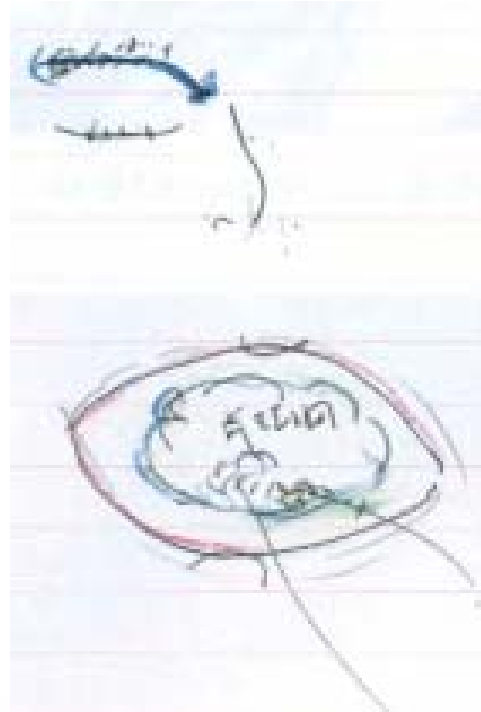
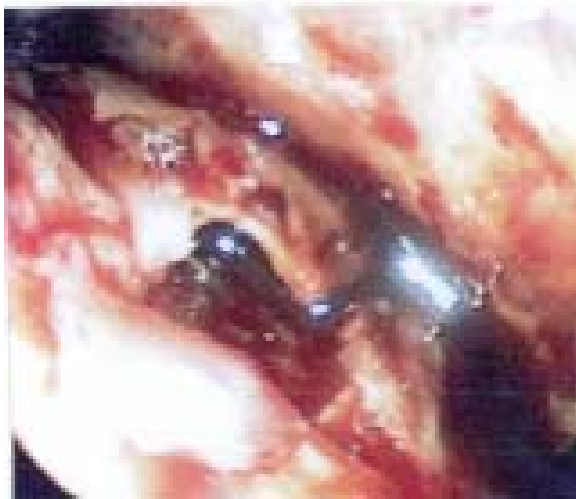
眼窩膿瘍は骨膜下にあります

自然吸収は難しいと眼科専門医の診断。



初回手術3週目後、再手術を施行。

2回目手術所見

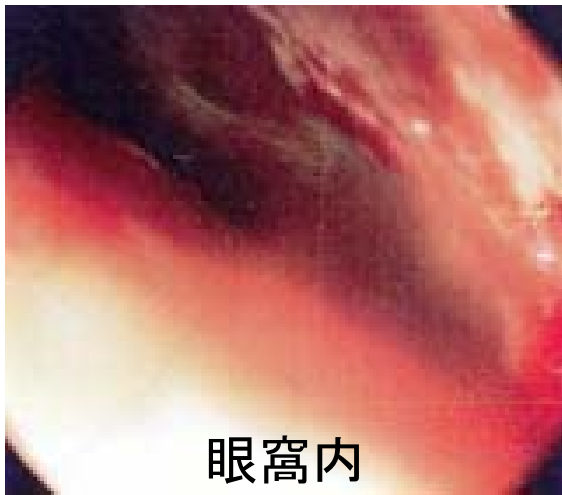


鼻外切開
内視鏡を挿入し
前頭洞から眼窩を観察

眼窩骨欠損部を
閉鎖する肉芽を除去

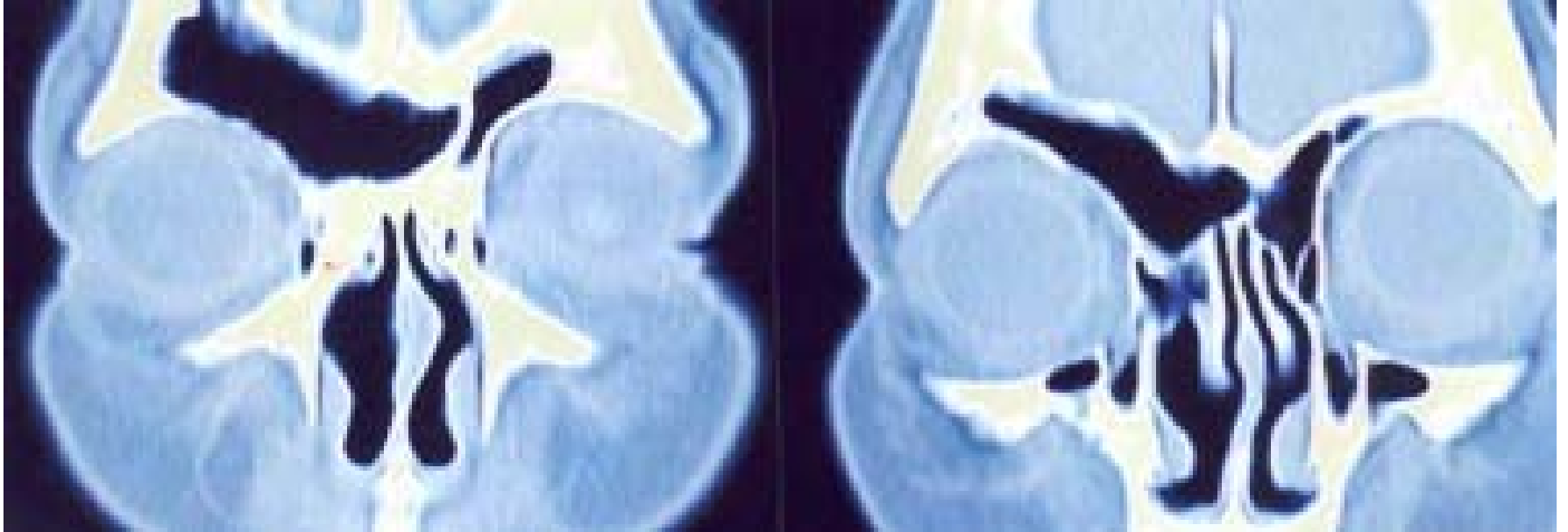


後方の眼窩骨壁切除
膿瘍を排出



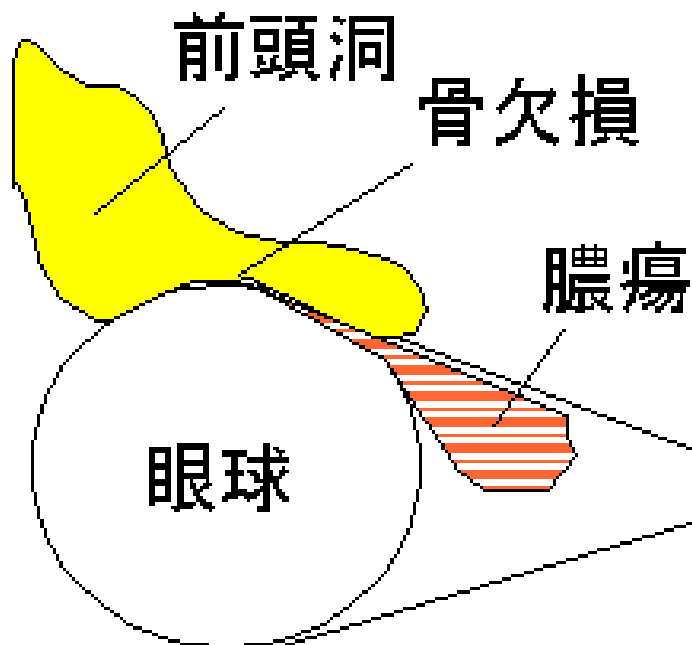
眼窩内

2回目の術後CT



眼窩内膿瘍ほぼ消失
眼球突出改善

鼻内手術で改善しなかった理由は？



骨欠損部と膿瘍位置のずれ

眼窩と前頭洞の位置関係
(下から上へ抜けにくい)



眼球が骨欠損部をパッキング

今回の経験で得られたこと

眼窩内膿瘍を合併した前頭洞炎では骨欠損と膿瘍の位置を確認することが大切。

骨欠損部と膿瘍の位置がずれている場合は、鼻外手術が必要。

前頭洞から眼窩内の観察に内視鏡が有用であった。